19 「なおざり」より「おざなり」がまし

ちょっと遊びすぎたせいか成績が急に下がってしまい、「ちゃんと勉強してる？　**なおざり**にしてるんじゃないの」と叱られたことはありませんか。えっ、「なおざり」じゃなくて、「**おざなり**」って言われた?!

すべきことをせず、ほったらかしにするのが「なおざり」です。それに対して、あまりまじめにはしないけれど、一応は何かをするのが「おざなり」です。

教科書も開かないで、ゲームをやったり、テレビを見たりしているのは、「勉強をなおざりにしている」と言えるでしょう。「おざなりに勉強をする」は、教科書は開くものの、あくびをこらえながら、適当に斜め読みするだけといった態度です。

「なおざり」はそもそも何もしないのですから、「なおざりな勉強」というのは日本語の言い方としてあり得ません。真剣味のない様子は「おざなりな勉強」と言います。

どちらにせよ、ほめられたことではありません。「なおざり」になんかしてないよ、ちょっと「おざなり」だっただけさ、なんておざなりな言い訳はしないようにね。

もっとくわしく

ほうっておくか、適当にやるか

「なおざり」は**等閑**という漢字が当てられます。閑に等しい、つまり、何もやらないのと同じなのです。語源としては「猶在り」だとする説があります。何も手をつけず、ほったらかしにした結果、「なお（元の通り変わらず）存在する」、つまり、事態が変化しない状態を表すというわけです。

「おざなり」は漢字で書けば**御座形**です。「お座敷形」という言葉から来ています。呼ばれた座敷（宴席）のお客に合わせて、その場しのぎに適当にとりつくろっている様子を連想してしまいます。誠意はない、やる気もない。ただし、「なおざり」と違って何もやらないわけじゃない、やってはいるのです。

なにか重大なミスが起きたとき、その原因が、必要な確認作業をしなかったことによるなら、「仕事をなおざりにした」、同僚とおしゃべりしながら確認作業をしたため見落としたというなら「おざなりな仕事だった」となるでしょうか。

結果的にはミスしたことに変わりはありませんが、部下の仕事を監督する管理職であれば、ミスの原因が「なおざり」と「おざなり」、どちらなのか、きちんと把握しておく必要があるかもしれません。